

有明高専だより

第74号

有明工業高等専門学校

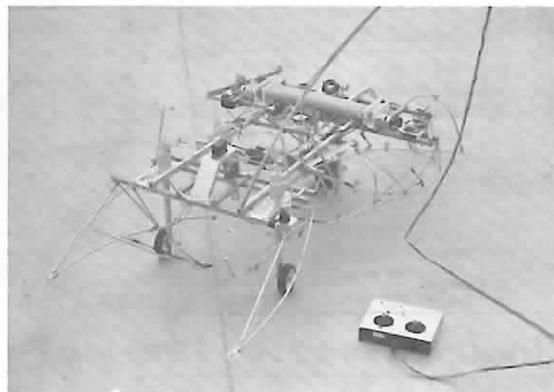
〒836・大牟田市東萩尾町150

TEL 0944-53-1013

印刷：(株)プリテックえんめい



会場風景



玉ころがし号

ロボコン'90



出番を待つ本校チーム



最後の調整

目次

- 14 13 12 11 10 9 8 7 4 3 2 1
- ロボコン'90
- 入試説明会・校内見学会
- 中学校訪問
- 平成3年度編入学試験
- 平成2年度公開講座
- 夏季実習報告
- 就職試験報告
- 編入学試験体験記
- 教室通信
- 図書館だより
- 文化講演
- 学寮だより
- 九州地区高専体育大会報告
- 全国高専体育大会報告
- 九州地区高専ラグビーフット
- ホール大会報告
- 九州地区高専英語弁論大会
- 報告
- 学生会長になって
- 学生会長の任期を終えて
- 小文化祭報告
- OB文化セミナー報告
- 第16回体育祭
- 四高专合同演奏会報告
- 吹奏楽部「福岡県産業安全衛
- 生大会」出場
- 事務部からのお知らせ
- 編集後記



入試説明会・校内見学会 参加者 八九二名

20日(出)
10月 27日(出)

昨年の入試説明会及び校内見学会の過密スケジュールの反省から、高専紹介を行い、引き続き校内見学会を実施した。本年も参加者が昨年比で10名程度増加し、92名、参加中学校数133校であった。実施要領は、その当日の見学者を2組に分け、1組10班編成(1班22名平均)で、受付時間を第1組12時40分から、第2組14時からとして混乱を避けるようにした。

視聴覚室でビデオ、スライドによる高専紹介を行い、引き続き校内見学会をもち上げた。各科の展示の学生による説明も好評であり、引率の先生のなかには自分の教子の立派な説明を聞かれて、その成長ぶりに驚かれ、とても嬉しかったと感想を述べておられた。今年も、2日間に分けたため、人数の関係上、一部の見学者には希望通りにはいかず、ご迷惑をかけたかもしれない。幸いにも2日間とも好天候に恵まれ、無事終了した。

各学科等の見学場所及びテーマ

学科等	テーマ	見学場所
電子計算機	電子計算機設備等の紹介	電子計算機室 (図書館3階)
電子情報工学	電子情報工学科概観紹介 パソコンで設計する電子回路	1階 新パソコン室
工業化学科	分析化学実験の展示と説明	1階 分析化学実験室
	物理化学及び有機化学実験装置の展示と説明	2階 物理化学実験室
電気工学科	ミニ雷の実験	1階 高圧実験室
	パソコンによる列車運行制御実験	2階 通信実験室
建築学科	建築学科の概要 造形、建築設計製図の作品展示	1階 造形室 1階 造形室
	騒音測定と日影図作成 構造材料とRC・SC 音組の実験	1階 造形室 1階 構造実験室
機械工学科	コンピュータによるネームプレート製作実演 NHKアイデア対決ロボットコンテストのビデオ 映写とロボット展示	1階 機械加工実験室 中庭テラス

計 133校

参加中学校都市別内訳

大牟田市	11	遠賀郡	1
三池郡	1	北九州市	3
山門郡	5	飯塚市	2
柳川市	3	糸島郡	2
大川市	3	粕屋郡	2
筑後市	2	久留米市	8
八女市	4	荒尾市	5
八女市	2	玉名市	4
三浦郡	4	玉名郡	7
浮羽郡	3	鹿本郡	1
小郡市	1	熊本市	3
朝倉郡	4	熊本市	1
太宰府市	4	飽託郡	1
春日市	2	球磨郡	1
大野城市	2	上益城郡	1
筑紫郡	2	鳥栖市	1
筑紫野市	2	多久市	1
甘木市	2	佐賀市	1
宗像市	2	佐賀郡	2
宗像郡	2	長崎市	1

アンケート・コメント集

〈生徒のコメント〉
○どの学科にも行きたくなくなった。設備が良く、学校に来て実験などやってみたい。
○すごく楽しそうだけど、むずかしかった。
○ほとんど機械を使って作業しているの、難しそうだった。でも、すごい。大学みたいところだと思った。
○パンフレットなどでは分からなかった校内設備が見られて良かった。
○はじめは高専を迷っていたけれど、見学してからどうしても入学したくなった。
○今から入試にむけて勉強を頑張ろうという気になりました。
〈保護者のコメント〉
○もっと早く説明会を催してもらえば、学校の理解が出来、目標も定まり、勉学に力の入れ方が違ってくるのではないかと思えます。
○学生さんの向学心に燃えている姿、アカデミックな雰囲気を感じました。是非子供に有明高専で学んでもらいたいと思います。
○静かな環境の中で勉強出来ればすばらしい。
〈先生のコメント〉
○自分の中学時代にも、このような見学会があったら、きっと人生変わったであろう。
○少し説明が難しく理解しにくいところもありましたが、それだけ専門分野の学習が行われているのがよくわかりました。
○見学者が実際に扱えるような簡単な実験もあれば良いと思います。

中学校訪問

本校のPRと中学校との情報交換を目的にして中学校訪問を引き続き、本年も各科の協力を得て実施した。訪問中学校数は約100校で、訪問先はほぼ昨年と同じであった。中学校の進路指導の先生の高専に対する認識も、以前より深まっているように思われる。反省会においては、中学校訪問を各科、地域ごとに毎年変えないで、各科に固定したらとの意見が多かった。訪問地域は次の通り

- 福岡県：大牟田市・三池郡・山門郡・柳川市・筑後市・大川市・三浦郡・浮羽郡・三井郡・甘木市・小郡市・筑紫野市・筑紫郡・八女市・八女郡・朝倉郡・太宰府市
- 熊本県：荒尾市・玉名市・玉名郡
- 佐賀県：佐賀市・佐賀郡

平成3年度編入試験

8月20日、工業高校生を対象にして編入試験が行われた。志願者は、機械工学科5名、工業化学科1名、建築学科2名の計8名であった。選考の結果、次の5名が合格した。

- 機械工学科
大田黒 剛 (鹿本商工高校)
吉田政二郎 (香椎工業高校)
武田 真一 (玉名工業高校)
- 工業化学科
福田 将延 (香椎工業高校)
- 建築学科
齊藤 理子 (熊本工業高校)

平成2年度公開講座 「来年も、またぜひ……」と 4講座盛況裡に終了

(1) パソコン技術研修講座

本校電子計算機室では、本年度一般市民向け「パソコン技術研修講座」という新しい公開講座を大牟田商工会議所と共催で、7月28日から8月25日までの各土曜日ごとに5回実施した。本校のパソコン設備の都合上、30名に制限し募集したところ、約80名の応募者があり、やむを得ず40名を受け入れてスタートする盛況ぶりであった。



パソコン技術研修講座受講風景

講座内容は、パソコン操作入門および表計算ソフト「LOTUS 1-2-3」の表作成・グラフ作成・データベース操作、事例作成に至る相当の高さまでを実施した。

電気工学科では、7月23日から4日間、中学生を対象に「パソコン入門教室」を開講した。今年も、募集人員を超える応募者があったが設備の都合上45名を受け入れ、BASICS言語の基礎について講義と実習を行なった。受講者の中には、3年連続で受講した女子中学生もおり、「受講する度にパソコンへの興味が増してくる」とのことである。非常に嬉しい思いをした。

(2) パソコン入門教室

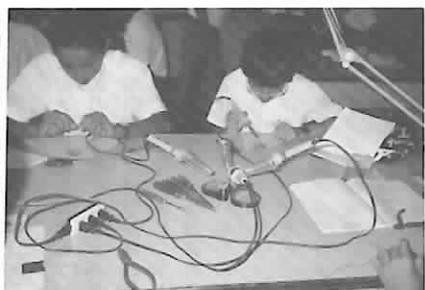
最終日にはワープロソフトを用いて感想文を書いてもらったが、全

(3) やさしい化学実験講座

中学生を対象とした本公開講座は今年で三年目になるが、平成二年八月一日、二日の間に実施された。今年も20名の予定で募集したが、受講者は21名と定員を超え、盛況だった。木佐木教授他12名の教官、及び5C学生の指導のもとに6課題の実習を、3〜4名一組で一課題70分で行なった。

(4) たのしい電子工作教室

本年度は初めての試みとして、電気工学科において、中学生を対象とした電子工作教室を計画し、七月三十、三十一日の二日間にお



たのしい電子工作教室受講風景

できた満足感に浸りながら、講座を終えることが出来た。

アンケート結果(重複回答可)によると、「講座を何で知ったか」は広報が24名中11名で一番多かった。「誰に勧められて応募したか」では「自分で」が22名中12名と目立った。「講座の内容」については「面白かった」と答えたのは21名中18名だったが、面白かったテーマの偏りが目立った。「ためになったか」の間には、「ためになった」が21名中18名、「来年も来たい」と答えたのが9名中5名だった。

また、実習中のスナップ写真と記念写真を送ったが、ある受講生より「来年も是非来たい」というお礼の手紙を頂き、有り難かった。

第二日目は、組み立て方法、ハンダ付け要領の説明、ハンダ付け練習を行なった後、組み立て作業に入った。午前中から始めた作業は、昼食で一時中断となったが、ほとんどの参加者が、食事を終えた後、午後の開始時刻を待たず、休む間もなく作業に取りかかっているという熱心さであった。組み立てた装置は、音楽のリズムに合わせて数個の発光ダイオードが点滅するもので、部品の取り付け位置のまちがい等一部にはあったものの、すべてが動く動作し、皆満足気であった。アンケート調査の結果では、「勉強になった」、「楽しかった」というものが多く、「たのしい……」と銘打って行なった初めての講座であったが、主催した側としても、一応満足できるものであった。

夏季実習報告

4 M 松岡 博典



7月31日より8月10日までの間北九州市にある(株)安川電機製作所にて工場実習をさせていただきました。この会社を選んだ理由は、産業用ロボットについて大変興味があったことと、親しい先輩もこの会社に就職されていて、会社の雰囲気などについて教えていただくと思ったからだった。

実習内容は、希望通りのロボット工場であったが、八幡工場では、制御の方はやっていなくて、ロボット本体の組立てや配線を行っていた。最初は、制御関係のことを勉強したかったが、自分がついたパートは、組立ての中でも最終段階であったので結構ロボット全体の仕組みが理解出来た。

作業の内容は、『モートマン』という溶接用ロボットの腕部の組立て及び本体への取り付け、減速機をボルトで取り付けさせてもらったが、このねじ締めという単純に思える作業でも、部品によって締め付ける力が決められていて何度も作業の方々に尋ねなければ

出来なかった。しかし、部品図を見せたら、意外と簡単な構造でねじを締める力や部品を組立てる順番などもわかった。これがきっかけで、設計図を見ながらの作業をまかせていただき、作業の方々に迷惑をかけることなく作業を進めることが出来た。またここで初めて学校での製図の授業が役に立ったという満足感も得られた。

ロボット工場というと、ロボット自身がロボットを組立てている無人化の工場をイメージしていたが、今まで述べたようにほとんどが手作業であり、このことを班長の方に尋ねたら、この工場は、今年建ったばかりの新工場で、まだ設備が整ってなく、作業の方々の他の工場から手伝いに来られた方であるということだった。しかし、10月にはこの工場も完成し、無人化が進み、生産台数もかなり上がったようで、天皇皇后両陛下もこの工場を御視察なされ、安川電機という会社が中小企業でありながらロボットに関して、大変素晴らしい技術を持っているんだなと思った。

この実習では、ロボットに関する知識や会社の事を勉強できただけでなく、会社の人のコミュニケーションも計れ、また他の高専に親友も作る事が出来て、予想以上に大きな物が得られたと思う。最後に、現場の作業に未熟な自分

分に、怪我をしないよう優しく丁寧に指導して下さい。工場の皆様に厚く御礼申し上げます。

4 E 河野 光貴



8月20日から30日まで神奈川県横浜市富士通電装株式会社にて実習を行って来ました。この会社はまだ夏季実習の年月が浅いため、有明高専からは私が初めての実習生でしたが、全国各地からは約60名の高専生が参加しました。各自がそれぞれの実習部門に配属され、私の実習部門は端末技術部でした。

実習のテーマは「マイクロプロセッサを使用したゲーム機の製作」でした。最初の2日間は、ゲーム機製作にあたっての前準備として、端末技術部の社員の方からのハードウェア及びソフトウェアの講義があり、その後どのようなゲーム機を作るかといった仕様を各自決定しました。

次にその仕様に従って簡単なフローチャートを書き、それに基づいて、アセンブラプログラム及び細部の内容まで組み込んだフローチャートを作成しました。これらの作業が終わるまで丸3日かかりました。

次にプログラム入力とアセンブルの実習ということで実際にコンピュータにプログラムを打ち込んでみて、誤った命令などを使っていないかを調べ、プログラムが出来るとアセンブルを行ないました。

次にバラックの製作を行ないました。これは、8751、水晶、スイッチ、発光ダイオードを限られた範囲で使用して基板に取り付けるもので、自分の仕様に合った配置を各自考え、思い思いのバラックを製作しました。

バラックが出来上がると、後は8751に自分のプログラムを入れ、バラックを直流電源につないで動作確認を行なうのみです。結果は誤動作することなく無事完成しました。

最初「ゲーム機を製作する」というテーマを頂いたときに、本当にこんな短い期間で出来るだろうかかと不安でしたが、無事に全過程を終了することができ、しかも実習内容以外にも諸先輩や他高専生との会話や、会社内の雰囲気など、貴重な体験をさせていただけ、とても有意義な体験であったと思います。また、会社の方々にいろいろとお世話いただいたことに深く感謝いたします。

4 C 西島 良介

私は、ユニチカ(株)岡崎工場のユニチカ設備技術で、会社内の舞台裏を知りました。この中には、



大きく分けて設計部と保全部と原動部とあって、各部で数日ずつ実習させていただきました。設計部では、室内を一定温度に保つために、その建物の壁の材質と面積と窓の面積、蛍光灯の消費電力、人間の数、その他から一時間あたり何カロリーの冷房負荷が必要なのか計算しました。次に、保全部では、製造設備の保全を行ないました。ここでは、いくら頭で分かっているにも身に付いていなかった。何にもならないと実感しました。この実習のお陰で、この部がなければ工場は絶対に生産活動ができないと知りました。また、ユーティリティ設備の大切さもこの実習がなかったら、名前すら知らなかったでしょう。最後に、原動部では、工場で消費される電気を、電気会社との契約受電量を、超えないように、受電と自家発電とのバランスを、コンピュータで制御している部屋の見学をしました。

私は、この決してメジャーとは言えない部で、有意義な実習を沢山させていただいたお陰で、工場の設備のつながりがよくわかりました。また、就職するならば、自分のレベルにあったところを選んだ

ほうが自分のやりたいことができるとわかりました。

たまたま今まで学校で学んだことが、全然役に立たない所での実習でしたが、このお陰で、社会に出てからただレールの上を進むだけではなく、いろんな挑戦をして脱線しても、挫けない勇気がついたような気がします。

迷惑で手がかるのに、わざわざ実習生として迎えてくださったユニチカ(株)岡崎工場の皆様に厚く御礼申し上げます。

乱文でありましたが、ユニチカ(株)での実習は、本当に充実したものでした。

4 A 古瀬 秀幸



思い出のいっぱいあったタイアリー、ページをめくる手を止めた夏季実習の日々、あれはそう、思い起こせば今年の夏、あの頃は日本中が異常な暑さにくらべてたっけ、そんな中、僕は、兵庫県にある「柄谷工務店」で夏季実習が行なわれていると聞いて早速現地に乗り込んでみた。先生方から、勉強させてもらいに行くんだ。と言われはしたが、その言葉を実感できないまま、気が付いたら会社の前に立っている僕がいた。

というわけで実習に行ってきたわけですが、行ってまず最初に感じたのが雰囲気の違いでした。それぞれがそれぞれの責任において仕事をしている企業と学校を較べるのは、土台無理な話ですが、とにかくくるま湯に慣れきってしまった僕にはとても新鮮に感じました。

そして次の日から現場に出たわけですが、そこでは、今までの自分の不勉強を身にしみて感じました。一つ一つの言葉や公式は、確かに見覚えも聞き覚えもあるものなのに、「え、こんな時に使うの。」とか「これってこんな意味だっけ?」とかいうことばかりで、ほとんど身についていませんでした。会社の方には、「まだ学生だから」と言ってくれましたが、一年半後には、自分が責任を持ってやらなければならぬ事です。これは、気合入れて勉強しなければ、と思うと同時に今までの自分が恥ずかしくなりました。と、自分の不勉強を恥じた僕ですが、現場の雰囲気

に接する事ができたのは、今後のために非常に役立つと思います。と言っても三勤一休の超楽勝日程だったので疲れもなかったし、本当の意味で現場に慣れたとは言えませんが、学校では体験できない事なので、今年以下の人たちも4年生になったら、夏季実習に参加することを勧めます。アルバムの中のメモリーズ、ま

ぶしい夏が手を振るよ、もう帰れない近くて速い思い出が。

就職試験報告

5 M 柿塚 真実



僕は7月6日、7日に工場見学も含む三菱アプレシジョン(株)の就職試験を受ける為鎌倉へ行った。この会社は外にもやりたいことはいったけれど「今」という時にあって、これからである宇宙開発機器の開発をやるのが一番おもしろそうだと思って選んだ。

しかし鎌倉に行くのは初めて、しかも飛行機、電車、モノレール、バスを乗り継いで行くので、就職試験の前に、指定された時間までにたどり着くという問題を解決しなくてはならなかった。

着いて、まずは見学。この時は現場の若手の方が静かな工場をわかり易く案内してくれた。ただこの工場の目玉とも言える自衛隊用航空機のシミュレータの製作現場には昔組だけしかなく完成品に実際に乗って体験できなかったのは残念だ。見学も終わりその日は会社の寮で一泊。料理人のおっちゃんや、先輩からもこの会社に絶対来いよ

と熱烈的な誘いを受けた。風呂から上がるとその会社の高専生OBによる「受験生歓迎パーティ」に出席しこんな事していいのだろうかと思いつつ、深夜まで盛り上がる。

次の日、身体検査の会社の手帳の悪さで、筆記試験は午後から始まった。試験は物理・数学・英語の順に行なわれた。物理・数学に関しては高専の一、二年程度の問題で6問中から4問選び解け、というもので比較的楽に解けた。しかし英語はその二つと違って変わって非常に難しかった。というか、自分がいかに英語力がないかというのをこの試験で嫌というほど思い知らされた。

筆記試験の後は面接。6対1で始まった。面接は以前会社の方に提出した自己紹介書に沿った質問確認という形で進み、この会社をどのようにして知り、何をやりたかったかといったものから、クラブの事、あなたのセールスポイントは？などちよつと離れた内容にまで及んだ。

帰りの飛行機の中で僕は人生の中にこの一瞬が二本のレールを敷いてしまったような、そんな気がしていた。

5 C 柿島 一

今年は、空前の売り手市場といわれましたが、イラクのクウェート侵攻により景気後退のきざしが見え始めた9月、私は、北九州にある新日鉄化学株式会社に入社



試験を受けに行きました。

午前中は、ビデオによる会社概要説明、研究所及び工場見学があり、午後から面接がありました。面接内容は、志望動機、学業のこと、工場見学の感想、どういった事をやってみたいかなどで、細いところまで聞かれました。とても緊張していたのですが、自分の意見を持っていたので、うまく答えることができました。

翌日、内定を知らされたのですが、一ヶ月後、身体検査と学力試験がありました。学力試験は、高専卒の人が作成した化学の総合問題と一般常識(国・数・英等)の問題でした。基本的な問題でしたが、日ごろから勉強していないと解けない問題ばかりでした。学力試験が終わる二度目の面接がありました。面接内容は、社会人になつてからの抱負、これから卒業までの過ごし方などについてでした。社会では、高専卒の評価が高く、その分期待されていることがわかりました。就職状況も抜群です。私は、就職と同時に、九州工業大学工学部物質工学科の第二部3年次に編入します。こんな生き

方をしてる先輩を参考とし、自分の可能性を信じてやれるところまでやってみたいと思いいこの進路を選択しました。

誰にでも、得意、不得意、好き嫌いがあります。まずは自分自身をよく知ることが大切で、将来どういう仕事をやりたいかなど、早いうちから考えておくことが大切です。専門の中でも、自分の得意とする分野を一つでも持っていていれば、大変有利です。

近い将来下級生のみならずにも進路を決定する時期が、必ずやってきます。自分の思い描いた進路決定が出来るように、今、何をすべきかを、日ごろからよく考えていて下さい。

5A 大隈 淳也



「就職試験」これは自分の人生において2度目の大きな分岐点だったような気がする。

一度目は、高校受験の時だ、自分は、幼い頃から、建築に憧れていたので中学三年生の終りに、高専を受験することを決意した。今でも建築の道に進んだことに後悔はしていない。

二度目は、今度の「就職だ」、「建築」といっても幅広い。施工会社、

設計事務所、ブランド系の会社、ハウス関係などがある、これは建築に限らず他の4学科にも言えることだと思いが、建築は建築でもその中で何がやりたいか、電気なら、その中でも何がやりたいか、これを決めるために悩んだ人が、5年生の中にも少なからずいることと思う。自分も多分に悩んだ。結局、学科主任や担任の先生に相談し、自分でも慎重に考えた結果、施工会社に決めた、これが良かったのか悪かったのかは、わからないが一杯がんばるつもりだ。もし自分に合わないならば、自分にあつた仕事をまた見つけたいのだから、とにもかくにも今度の就職試験は、無事に終わって本当に良かった、後は卒業を待つだけ。

四年生諸君、来年は君たちの番だ、自分のやりたいこと、やってほしいと思う、「ガンバレ」

編入学試験体験記

5E 寺尾 功生



七月十六日午後、夜行バスに乗り大牟田を出発しました。バスに乗っている間たっぷり眠ろうと思つてましたがなかなか眠れず、やっと眠りに落ちると一時間ごとに目が覚め疲れがとれるどころか、よけい疲れてしまいました。JR大阪駅では、同じ長岡技大の受験生に声をかけられ、電車の旅を同行することになりました。同行者三人はよくしゃべり、自分一人で勉強するのは気が引け、結局、何時間もの間おしゃべりするか、バスでの疲れのせいか眠るといふ行為だけで終わり、長岡へ着きました。

電車を降りると、同じ年代の若者が沢山いて、意外と多いと思いが若干不安になり、大学へ下見に行く、第一志望の電気、電子システム工学課程は七十六人中二十人という三倍以上の難関であることを知りました。そして第二志望の電子機器工学課程は三十三人中二十人と倍率が低いので、ほんの少し後悔しましたが、自分で選択したので頑張るしかないと思いい旅へ行きました。

旅は古い建物で床はミシミシと音をたてていました。同室者は、奈良県の高専生と栃木県の高専生でした。彼らも勉強する気が無いようで、また一人で勉強すると気が引けると思いい彼らのペースに合わせていました。

試験は午前中に国語、英語、午後最初の試験の国語は無事終わり、気をよくしたまま英語の試験を受けました。英語はだいたい順調でこのままいければいいが、最後の長文で五つ位の知らない単語が何度も使われ、ほとんど白紙となり。自分の単語力のなさをなげくはめに、なりました。数学はだいたい出来ましたが最後の専門では、六割は解けましたが残り四割は出るとは思いません。機械工学科および実習工場に在籍して、現職職員のつもりで有意義なOB会でありました。尚、詳細はOB会誌「萩尾坂」に掲載される予定です。

教室通信

一 機械工学科教官・技官OB会開催さる

さる9月23日(日)の体育祭に時を同じくして、機械工学科教官・技官の方々が現職の職員と昼食を共にしながら歓談されました。短い時間ではありましたが、機械工学科の歴史をひしひしと感じさせられ、現職職員にとっても有意義なOB会でありました。尚、詳細はOB会誌「萩尾坂」に掲載される予定です。

一 教室だより(機械工学科)

今頃の時期になると機械工学科の各研究室や実験室の灯が夜遅くまで消えない事を低学年の学生も気付いているかも知れません。これは5年生の学生が卒業研究に取り組んでいるためです。そこで今回はその様子についてお伝えしましょう。卒業研究(卒研と略称することが多い)は一般の授業科目と同様に時間割の中に組み込まれ、また単位数も決まっていますが、一般の授業科目とはまったく別物だと思わなくてはなりません。ではどこが違うのでしょうか? 授業はすでにわかっている事を教えてもらうものですが、卒研は未知の世界への挑戦なのです。そして戦う戦士は学生自身です。教官は学生へ未知の分野を示したり、そのアプローチの方法等を学生と共に考えたりしますが、実際に実験しその喜びは挑戦する者にしか与えられません。その喜びを得るために卒研生(5年生)は決められた時間外にも積極的に研究活動を行なうのです。

機械工学科の卒研生も最初の頃は「先生、今日は何をしますか?」と聞いたりする場合があります。やらされる卒研になりがちですが、今頃の時期ではそういう事もなく頑張っています。そして研究の成果は3月の卒研発表会で学生自身発表します。卒研生はこれまで勉強してきたこと一度実感を大感であり、そこから得るものは非常に貴重です。下級生の皆さんもどうですか、きっと得るものがあると思います。

有明高専 図書館だより

60

閲覧者へのお願い

館長 木佐木 尚

前号では、図書館へおいで、と誘った。来てくれるのは良いが、時には、あまりにも、行儀の悪い人を見かけるので、役目上、注意を喚起しておきたい。

大声でしゃべる人 饒舌
飲み食いだけをする人 飲食
涼みにだけくくる人 納涼
温くもりにだけくくる人 採暖
眠りにくくる人 睡眠

TPOによつては、これらの項目も、不行儀ではない。人間の本能である。しかし、図書館とりわけ閲覧室では、止めてもらいたいと思う。

図書館で、本を見るのは、自分一人ではない、というのを忘れていてほしい。

又、忙しいはずの学生諸君が、これらだけをむさぼっている場合には、教職員は一言、何かを言うことになる。

本を読むながらの居眠りくらいなら、かわいと思う。しかし、冷房機の上に横たわったり、椅子を並べて、肘をかくのは、行儀ワルイことである。

苦言も、館長の役目のうちだろう。どうか、よろしく頼む。以上

平成二年度 全国図書館大会を振り返って

駿河路に「六〇〇名集うー」とき 平成二年十月二十四日

静岡市民文化会館他 本年も十月二十四日から二十六日にかけて第七十六回全国図書館大会が静岡市民文化会館大ホールを主会場に、全国から「六〇〇名」の参加のもと、「90年代の図書館を考へる」をメインテーマに開催され参加させていただく機会を得たので、大会当日討議された概略を記し報告したい。筆者は全体会についてはは日程等の都合で出席することは出来なかったものの、各分科会十分科会に参加していただいた。本年も「六〇〇名を超える」参加があり、当日の様子は宿舎のテレビの画面を通し、参加者の熱気で大変な盛況であったことが報じられ各館の意気込みが強く感じられた。我々高専関係者は五十二名の参加のもと「短大・高専図書館の活性化」と題して第四分科会

で討議することになった。開会に先立ち短大加瀬館長のありさつとあつた。鈴木短大館長より開会の幕明けが宣言された。

討議は午前と午後に分けられ、午前中は短大・高専の合同で、本日の講師である室伏武先生(亜細亜大学教授)の略歴などの紹介のあ

と「情報時代における図書館の活性化」と題して基調講演を拝聴した。紹介によれば氏は図書館学の権威で、現在、日本経済短期大学で教鞭を執られるかたわら図書館協会の要職にあり多忙なかたわら専門分野の図書館学の見地からみずからの体験をもとに短大・高専図書館の多様な問題点、課題等について解り易く解説していただいた。

以下、拝聴した講話を要約すると、情報化社会の到来とともに、短大・高専図書館においても、その時代の特徴である図書館の電算化によるオンラインネットワークシステム化が除々に進行しつつあり、従来の物「本」の管理中心から知識「情報」管理、加えて図書館のインターネット化、個性化等々。インターネット化、個性化等々大きく変貌しつつある。

こうした新しい図書館への変革が急務であり、これらにいち早く対応するには図書館員の意識の変革が最重要であり、短大・高専図書館の活性化をはかることが不可欠であろう。図書館の活性化を図るうえで図書館の個性化、図書館相互のオンラインネットワークシステムの構築、更には情報検索業務すなわち参考業務の充実による学生の学習活動、教育の教育研究にその成果が大きく貢献できるであろうと強調された。

また、図書館はあらゆる文化の拠点となるべき使命をもちながら多額の予算を投入する割には生産性が少ないなど一般的には金喰虫的存在でしかないなど様々な偏見があることも事実であり、まだまだ多くの問題点を抱えており、これを解決するには大小の図書館を問わず地球レベルで考えて行くこ

とが必要であろうとの指摘があつた。午後からは高専関係者だけの分科会に入り、沼津高専工藤校長の講演があり、古くて新しい問題として「高専図書館のあり方」と題して講演があり図書館の起源から現代図書館の成立に至るまでの経緯を詳細に説明していただいた。また、高専図書館における設置基準の見直し等について現在関係法規の改正、高専図書館の位置づけ、図書館長の確立等具体的な要望書を提出されたことなど。

又図書館の利用率の低下に対応した、図書館の利用法の指導などを身に付けさせるか図書館の利用を促進するため図書館の休日、夜間開放(図書館の学外(地域住民)間開放など国庫協における様々な施策等について高専図書館の様々な施策について啓蒙活動の状況を詳しく報告していただいた。

つづいて、福井高専 井上先生の「機械工学科教官」発表にうつり、「教育の付加価値つき図書館蔵書検査システムの提案」と題して福井高専独自で開発(試作)されたデータベースについての取組みについてスライドを使って説明していただいた。図書館のシステム化が急速に進むなか高専図書館は小規模ながら研究図書館と学習図書館の両方の機能が求められている。福井高専では後者の学習機能を果たすことを目的に開発に着手され、これらを長期的展望にたつて開発が進められている。

最近では街の店頭で図書の検索サービスが受けられるようになったが、これらは基本的書誌事項のみで、読者側からすれば必ずしも十分なものではない。福井高専ではデジタル交換機とパソコン

を利用して音声通話とコンピュータによるデータ通信が同時に行えるシステムが開発され、従来の著名者、書名等の基本的書誌事項のみにとどまらず、図書の内容のあらまし、主要目次、難易度、書評推せんランク、メモ欄(メッセージ)をもつけ、これらをキーワードによる検索を可能にすることに、学生、教官の書誌情報の検案が容易に行なうことができる。又試作された図書の基本データベースの利用により学生の学習を援助することもより、図書館において利用環境の改善に大きな効果をおよぼすことが期待されより精度の高いシステムを完成させるためには、教育現場における教官の協力なくしては目的を達成することはできない。更には全国の高専図書館が横の連携を深めつつデータベースの構築に参画されつづいては発表された。

つづいての発表は「学内ネットワークを含む図書館電算化の諸問題」について、沼津高専 神田貴由氏より沼津高専における図書館の電算化について学内の情報処理ネットワーク(学内情報センター)を利用して電算化の状況を詳しく説明していただいたが、紙面の都合により内容については割愛させていただきます。なお、紙面に載せたいことをお許し願いたい。最後に全国の図書館関係の方々や交流の機会を与えていただいた関係者の方々に深く感謝するとともに、これから電算化に向けてのいわば指針となす教訓と示唆をいただきました。発表者諸氏に対し厚くお礼申し上げる次第である。

図書館係長 宮川 喜己

文化講演

「変わりゆく世界と日本・日本人」

外務省大臣官房在外 公館課首席事務官 佐藤重和



佐藤重和先生

先生は、昭和49年東京大学法学部卒業後、外務省におはりになり、中国大使館、アメリカ大使館等の勤務を経て、現職にあられる方で、きわめてホットな国際関係の第一線で活躍しておられる方である。以下が講演の概略である。

外国人からみた日本人の印象を動物にたとえると、羊、ウサギ、アメーバ、カラスということが言われる。羊は、おし黙って、群をなしているの意。ウサギは、耳が長くて落ち着きがない。アメーバは、見た目が無気味で無原則。カラス、黒づくめで無原則。煮ても焼いても喰えないのニュアンスもあるようだ。いずれも余り良いイメージではない。

若い人はずいぶん変わってきた。行動力もあるし、自己主張もするようになり、おしやれにもなったが、外国人からみると、やはり日本人の印象は羊やカラスというのが残っているようだ。

ひと頃、世界のどこにでもあるものの代名詞としてココロラが挙げられていた。しかし、今や、ココロラに代わって日本人を挙げる人が多い。実際、日本人は、世界の至る所にいる。今年の二月、仕事でギリシャに行った。休みを利用して、エーゲ海に行つて周遊船に乗ったが、乗客の約七割は日本人であった。船員にきくと、日曜日には、約七百人が観光船に乗るが、五百人以上は日本人のこととであった。アルジェリアには、サハラ砂漠という人も余り住んでいない所がある。そこにも日本人の姿がある。とにかく、「安全と水はただ」と思いこんでいるためか若い女性が多かった一人で、危険もトラブルも顧みることなく、無責任なガイドブック片手に歩き回っている。

昨年、海外旅行をした人の数は、延べ九百九十万人にのぼる。これは十年前に比べると実に二倍以上の伸びである。今日、海外旅行は

きわめて日常的な事になった。どこの国でもこのように海外旅行をしているわけではない。これは、日本が豊かになったからこそのことである。

世界の国の数は刻々変わるし、数え方もむずかしいが、我が国が承認している国という事であれば、現在百六十八カ国がある。その内、百五十八カ国が国連に加盟しているが、日本は面積が言え、三千七百八十四四で、世界の五十四番目である。人口は一億二千万人で、世界の七番目。ところが、GNP、つまり国民総生産はアメリカに次いで第二位である。ただ一人当たりのGNPを見るとアメリカ二万ドルに対し、日本は二万三千ドルで、日本が三千ドル上回っている。つまり、日本が主

な国のうちでは、世界一の金持ちということになる。終戦直後、日本人はアメリカからチューインガムやチョコレートをもらって喜んでた。そのアメリカに、日本はGNPでは追いつき、追いついたのである。どうしてここまで日本は繁栄を遂げたことができたのであろう。私たちの父や母、祖父や祖母がよく働きよく頑張ったおかげだということもたしかにある。しかし、やはり一番は、戦後の国際情勢が日本に有利に働いたということであろう。

ソ連とアメリカを中心に、東西が、社会主義体制と資本主義体制とにわかれて対立するなかで、日本は西側陣営の一員として戦後を

生きてきた。そしてアメリカと安全保障条約を結びながら経済発展に専念してきた。東と西の対立の結果として生じた朝鮮戦争は日本経済をテイク・オフさせることになった。東西の対立は、ベルリンの壁崩壊という象徴的な事件をもって終わりを告げ、表面的には西側が、つまりアメリカが勝ったように見えるが、この対立は、東西の盟主国である米ソの双方を疲弊させた。つまり、日本は西側と東側の冷戦構造の中で、漁夫の利を得るような形で発展してきた。

一九五五年の日本の一人あたりGNPはアメリカの五十分の一であった。それが、一九六五年には五分の一になり、一九七五年には二分の一になって、一九八五年にはアメリカに並び、一九八七年には追い抜いてしまった。

このようにして経済大国日本の現在がある。一九八九年、日本は九十億ドルの経済協力を行った。これは世界一である。経済力が増せば当然、責任も重くなり、発言力も増していく。

日本人は平均主義的で、個性がないと言われる。フェイスマスであるとも。これには、言葉、文化、教育等の問題が考えられるが、これからの日本はそれではすまされないであろう。もっと自己の立場、意見を明確にしなければならぬ。場に立たされることになるだろう。例えば、クウェート問題についても、そうである。特に、石油の約七割を中近東にたよっている日本

にとつては、座視できない問題である。今回、イラクがクウェートにとつた行為は、侵略であつて、許されないことである。だからと言って、イラクを非難していれば事がすむというものでもない。経済的負担だけでなく、いろいろな形で問題解決のために貢献し、具体的には参画が求められている。その中には現在問題となっている国連平和協力法の件もはいつてくる。これは簡単にわりきれぬ問題ではなく、難しい決断を迫られる問題である。

戦争がいいですか、平和がいいですか、と問われれば、百人が百人、平和と答えるでしょう。しかし、世の中には、AかBかというような二者択一的な考えだけでは解決できないものがたくさんある。Aをとつたらどうなるか、Bをとつたらどうなるか、問題を飛躍させることなく、先を読んで、論理だてて考えて行く必要があると思

います。日本はこのように経済的に発展し、今やその行動は世界から注目されている。豊かになつたぶん、責任も重くなり、世界で問題が起されれば、その解決のため応分の役割を果たしていかなくてはならない。日本は世界とのつながりなしに生きていけないし、繁栄も維持できない。皆さんもその当たりをよく考えて、国際感覚をみがき、立派な国際人として一人立ちされることを希望します。(文責 瀬戸)

銀杏棟 学寮だより 青葉棟 若葉棟

寮生活 その楽しさと哀しさと

いつもは真面目な寮生諸君に、今回は寮生活の喜び、そして悲哀を赤裸々に、たっぷり語って

もらつた。まず、「俺の朝」と題する2C味崎啓一君の文を見てみよう。「俺の朝は」と、少々荒く始まる。「俺の朝は」ともリズムカルな歌で始まる。この歌が鳴るとベッドから這い出て、点呼と朝食のために外に出る。この時、後先を考えずに外に出ると、痛恨の寒さを味わう事になるのだ。通学生には解らない朝点呼の気持ちだ。

「朝食後、部屋に戻ると俺は学校へ行く準備をすばやく済ませてしまふ。そして、このあと彼文はこう続く。「登校時間になるまで寝る。俺にとつてこの一時がたぶん一日の中で最も有意義な時のような気がする。ところが、たまたまに熟睡してしまう日がある。朝は一分一秒が貴重だが、点呼のあと又寝はこわい。思わず熟睡してしまふ日には同室者の友から起こしてもらふことになる。俺は起き上がると、上着を着て、窓とコンセントを確認する。それは立派なことだと言いたいが、彼には、実は「俺は真夏の暑い頃、扇風機をかけたまま登校して主事室の先生にたられた記憶がまだ頭にひびついている」といふ事情があつてい

る。学校では、通学生と同じだ。昼に食堂から弁当が届く。放課後は部活だ。2A野崎達志君に書いてもらおう。「寮生の大部分は部活動(主に運動部)に所属しています。よく

考えてみれば、部員のほとんどは寮生ではないかと思うのではな

いでしょうか。なぜ寮生は部活に入っているのかとすると、理由は様々です。まずは盗難の防止が

あります。次に寮にいと「ひま」であることが言えます。しかし、僕は先に挙げたものより大切な理由があると思つています。それは、「身体を鍛える」ということです。当り前のことですが寮生は親元を離れて生活しています。もし病気をした時は、家にいる時のようにはいきません。

「部活から学べるものは、まだまだあります。例えば、チームワーク等の団結力の強さ、きつ

く練習するということ、自分もそのうちの一人だ。今、現にこの時間を

使つて書いている。でもそれが寮の楽しいところであり、先生だけの

先生だけの。特に一年生の場合、先生の敵がいる。どちらかが見

て来た時、いかにも勉強をしないぞ、と見せかけるのが必殺技

だ。立ち去つた後は(椅子を)180度回転して(背中合わせの

同室者と)楽しいお話をしなさい。うん、そうであつたか。では近

くの技を拝見しよう。でも勉強する時は寮生は一致団結で集中して

します。いやいや、しっかりと見回りますからね。

「それから、一年寮生にとつて一番難点である談話。言い換えればお説教みたいなもの。これが

たいぶあるから分らないから怖い。内容は挨拶とか制服とか、ま

と、それは、一年寮生にとつて一番難点である談話。言い換えればお説教

みたいなもの。これがたいぶあるから分らないから怖い。内容は挨拶

とか、制服とか、まあままと、それは、一年寮生にとつて一番難点である

談話。言い換えればお説教みたいなもの。これがたいぶあるから分ら

ないから怖い。内容は挨拶とか、制服とか、まあままと、それは、一

年寮生にとつて一番難点である談話。言い換えればお説教みたいなもの

。これがたいぶあるから分らないから怖い。内容は挨拶とか、制服

とか、まあままと、それは、一年寮生にとつて一番難点である談話。言

い換えればお説教みたいなもの。これがたいぶあるから分らないから

怖い。内容は挨拶とか、制服とか、まあままと、それは、一年寮生

にとつては、座視できない問題である。今回、イラクがクウェート

にとつた行為は、侵略であつて、許されないことである。だからと

言つて、イラクを非難していれば事がすむというものでもない。経済

的負担だけでなく、いろいろな形で問題解決のために貢献し、具体的

には参画が求められている。その中には現在問題となっている国連

平和協力法の件もはいつてくる。これは簡単にわりきれぬ問題で

なく、難しい決断を迫られる問題である。

戦争がいいですか、平和がいいですか、と問われれば、百人が百人

、平和と答えるでしょう。しかし、世の中には、AかBかというよう

な二者択一的な考えだけでは解決できないものがたくさんある。Aを

第27回九州地区高専体育大会

主管校 北九州高専
担当校 久留米高専・佐世保高専

第27回九州地区高専体育大会は7月20日～22日の3日に渡り、A地区(主管校北九州高専、担当校久留米高専、佐世保高専)で開催されました。今回は、全国大会が北海道というところもあってか、団体優勝の剣道部を初め、団体準優勝に、水泳部、柔道部、バレーボール部、硬式テニス部が入賞するほか、個人でも優勝が延べ11名(組)に達するなど、各クラブとも健闘が目立ちました。この勢いをもってすれば来年は、更なる好成績が期待されます。



北九州会場

- 陸上競技総合優勝 久留米 第3位 有明
- ※大会記録・タイ記録
- ・800m 1位 栗原(有)
- ・110mH 2位 有吉(有)
- ・400mR 1位 有明 ※43'0
- (木原・田上・有吉・花田)
- ・1600mR 3位 有明 3'30'7
- (花田・栗原・古賀・田中)
- ・走高2位 有吉(有) 1m83
- ・砲丸3位 猿渡(有) 11m79
- ・円盤1位 田上(有) 39m10
- ・3位 猿渡(有) 35m94
- ・やり 田上(有) 56m32
- ・100m(女) 緒方(有) 13'5
- ・走幅跳(女) 中尾(有) 4m74
- 軟式庭球 団体優勝 都城高専
- ・子選りリーグ 有3-0八
- ・個人戦三位 鶴林・渡辺(有)
- ・個人戦(女)二位 前田・横江(有)
- 剣道 団体優勝 有明高専
- ・子選りリーグ 有3-1佐
- 有3-2鹿
- ・決勝リーグ 有2-3八
- 有3-0都
- (都城、勝数同数、勝者数最多にて優勝)
- ・個人戦 三位 高川(有)

水泳 団体優勝 佐世保高専

- 準優勝 有明高専
- ・400mMR 三位 有明 4'57'1
- (山部・片山・永松・小野)
- ・800m自 一位岡本(有) 11'12'7
- ・200m自 二位小野(有) 2'21'6
- 三位和田(有) 2'26'6
- ・200mM 二位永松(有) 2'45'6
- ・200m背 二位山部(有) 2'48'2
- ・100mP 三位永松(有) 1'10'7
- ・100m自 一位岡本(有) 5'11'8
- ・100m背 二位山部(有) 1'01'7
- ・400mR 一位有明 4'13'3
- (永松・岡本・小野・和田)

久留米会場

- 硬式野球 優勝 都城高専
- ・一回戦 有明3-11大分
- バスケットボール 優勝 北九州高専
- ・子選りリーグ 有明41-85久留米
- 有明60-77佐世保
- 卓球 団体優勝 北九州高専
- ・子選りリーグ 有明2-3久留米
- 有明1-3熊本電波
- ・個人戦複(女)優勝 末吉・森田(有)
- ・個人戦単(女)優勝 末吉(有)
- 準優勝 森田(有)
- パドミントン 優勝 熊本電波
- 3位 有明
- ・子選りリーグ 有明2-1佐世保
- 有明3-0鹿児島
- 有明3-0大分
- ・決勝トーナメント 有明0-2久留米
- 3位 古河(有)
- ・個人戦(女) 3位 古河(有)

佐世保会場

- サッカー 優勝 鹿児島高専
- ・一回戦 有明0-1都城
- 柔道 団体優勝 八代高専
- 準優勝 有明高専
- ・子選りリーグ(Bブロック) 有明27-10久留米
- 有明37-0大分
- ・決勝リーグ 有明30-5佐世保
- 有明15-20八代
- ・個人戦の部 優勝 佐世保
- ・中量級 3位 安田(有)
- ・軽量級 優勝 立野(有)
- バレーボール 優勝 佐世保
- 準優勝 有明
- ・子選りリーグ 有明2-0大分
- 有明2-0都城
- ・決勝リーグ 有明0-2佐世保
- 有明2-0久留米
- 硬式テニス 優勝 佐世保
- 準優勝 有明
- ・子選りリーグ 有明3-0久留米
- 有明2-1都城
- ・決勝リーグ 有明0-3佐世保
- 有明3-0北九州
- ・個人戦複準優勝 江口・葉玉(有)
- 3位 広田・福山(有)
- ・個人戦(女) 4位 坂本(有)

第17回九州地区高専ハンドボール大会

優勝 八代高専
準優勝 有明高専
一回戦 有明19-11北九州
決勝戦 有明16-17八代

剣道部優勝報告

主将 5A 森 万年

我々剣道部は、九州大会でまさかの逆転優勝、全国大会では、粘りの準優勝という成績を修めることができた。昨年の高専大会惨敗の反省を元に、真冬の朝練、春合宿、夏合宿など厳しい練習を乗り越えた成果が全国準優勝という結果に結びついたと思う。現在レギュラーが大半残っているが、来年は、今年以上の成績が修められるよう、全国連覇の鈴鹿高専を破って全国優勝を目指してほしいと思う。そのためには、今年以上の練習が必要となってくるが、以上の練習に練習に耐えクラブが一致団結して頑張ってもらいたい。



第20回 西日本地区高専弓道大会

- 団体優勝 都城高専
- 団体(女) 優勝 都城
- 準優勝 有明
- ・個人戦(女) 4位 坂本(有)

第25回全国高専体育大会

主管校 苦小牧高専
担当校 旭川高専

- 柔道 個人の部 軽重量級 立野 一回戦敗退
- 剣道 団体優勝 鈴鹿 準優勝 有明
- 子選りリーグC 有明2-3詫間電波
- 有明5-0津山
- (勝者数によるリーグ1位)
- 決勝リーグ 有明5-0秋田
- 有明1-4鈴鹿



第10回西日本地区高専水泳競技大会

会場 呉市営プール
日時 7月27日
団体優勝 大阪府立高専
5位 有明高専

旭川会場

- 陸上競技 団体優勝 福島
- 800m 5位 栗原(有) 2'00'1
- 110mH 決勝進出ならず 有吉(有) 16'8
- 400mR 4位 有明 44'0
- 円盤投 5位 田上(有) 36m28
- やり投 優勝 田上(有) 59m82
- 大会新
- 100m(女) 2位 緒方(有) 13'7
- 幅跳(女) 3位 中尾(有) 4m70

第14回全日本高専パドミントン選手権大会

会場 熊本市総合体育館
期日 8月4日・5日
団体優勝 熊本電波
一回戦 有明0-3新居浜

第13回全国高専専門学校テニス選手権大会

会場 名古屋グリーンTTC
期日 8月6日・8日
個人戦複 二回戦敗退
江口・葉玉(有)

全国大会優勝報告

5E 田上恭明
8月11日(日)の北海道旭川は気温21℃という肌寒い日であった。午後2時「槍投げ」が始まった。1-3投目までは雨のせいかなかなか体が動かず、タイミングが狂っていた。しかし4投目はタイミングが合ってうまく飛んでいった。記録は59m82cm。
昨年負けてこのまま終わるのかと多少思ったことがあったが、顧問の井上先生の御指導、陸上部の方々の励まして、また、私のわがままについてきてくれた陸上部員そしてマネージャー、彼ら彼女らのお陰で再び勝つことができた。改めて感謝いたします。

全国大会優勝報告

5C 前田 和美
4C 横江亜希子
八月十一・十二日に、北海道の苦小牧で全国高専大会が行われた。初戦は、緊張している間に、二回戦は、とにかく、一生懸命頑張ろうと思っていた間に、気づけば試合は終わっていた。この時、ここまで勝ち残れると思っていなかった私達にとっては、ここまでやれたというだけで、ものすごく嬉しかった。

九州地区高専英語弁論大会報告

英語は、世界中で何億という多くの人が、日常の会話のやり取りに、また情報の伝達と記録のために、何気なく、そして、ありがたく大切に使っている言語です。私たちも、英語を学ぶ者として、英語を通してその人々と仲間になれることは大きな喜びであると言えます。

その英語を学ぶのに乗り越えられぬほどの障害があるとは、決して考えられません。大人から子供まで皆が使っている言葉です。学習し習い覚えるのに、そんなに桁外れの苦労があるとは考えられません。英語が読めて使えることの特権を味わいつつ、かつ、楽しみながら、自己の英語の技能を高めてゆきたいものです。

さて、英語が使えることの満足感の一つは、英語で自分の考えを相手に伝え得たときのもので、スピーチは、その意味では、英語学生には大きな励みであり、喜びです。この夏、7月24日(火)、都城高専で九州地区ESSの英語弁論大会が開催され、本校からは21下川君が「音楽が私に教えてくれたもの」というタイトルで出場しました。各高専からの選り抜きのスピーカーにまじり堂々の発表で賞状をいただきましたが、見事な発表でした。今後の成長が期待される出来でした。(池田記)

学生会長に なつて

4 C 太田黒庸行

この度、皆さんの御陰により、学生会長になりました工業化学科四年の太田黒です。先日の会長選挙では、皆さんに、承認して頂き有難うございました。

正直言つて、先の選挙で、立会演説に来てくれた人、投票に来てくれた人を見て、改めて、自分の立場の大切さ、責任の重さを感じているところです。四年前、この有明高専に入学した時は、まさかこんな立場になろうとは思いませんでした。皆さんの応援でなつた以上、自分なりに努力して精一杯頑張りたいと思つています。立会演説会でも言いましたが、聞かれなかつた人のためにも一度言いますと、私はいきなり公約なんかはいたしません。しかし、次の二つの目標を立てたいと思つています。

まず第一に「スクラップ、アンド、ビルド」。この言葉はよく聞かれますが、やはり、現状維持は後退の始まりだと思つています。悪い事はとりやめ、良い事はどんどん取り込んでいきたいと思つています。第二に、私もクラブでよく言つている言葉「向上心がない者はただの動物であり、ただのバカだ」。来年度は大きな行事として、高専



会長4 C 太田黒、副会長4 M 高田、3 A 横田以下スタッフ

不備な面もあると思いますが、その時は、皆さんの助言、御協力をよろしく御願ひします。

学生会長の任期 を終えて

5 M 後藤 英

一年間の学生会長の任期が終わつた。この一年間僕がやつてきたことがどれだけ皆さんの役に立つたろうか。

学生会では、朝校門に立つて一旦停止を呼び掛けたり、修己館付近で歩きながらの飲食に注意を呼び掛けたりした。しかし、注意してもその時だけであり、あまり効果はなかつたように思う。

これは、車やバイクの無許可通学などと共通する問題ではないだろうか。僕は「食べ歩きはやめよう」と書いてあるプラカードを持って、こんなこととする為に会長になつたんじゃないかと、ふと思つた。任期を終えるに当たつて、こんなつまらないこと(大切な事かも知れないが、少なくとも僕はそう思つた)をするための学生会ではなく、これからはもっと高いレベルで頑張ってもらいたい。名前だけでなくもっとちゃんとして扱ってもらえるように。

最後に、一年間支えてくれた学生会のみんな、僕を会長に推薦してくれた故松尾泰久さんに心から感謝します。

小文化祭

去る11月2日、本校で秋の小文化祭が行なわれた。

今年は文化講演に外務省の首席事務官である佐藤重和氏をお招きして「変わりゆく世界と日本・日本人」という題でお話ししていただいた。

9月の終りの体育祭、期末試験と続き、準備期間が短かつたが、小文化祭は文化系クラブの日頃の成果を発表する場とあつてプラスバンドを始め、ほとんどの文化クラブが催し物を行なつた。

そして今回初めて卒業生を招いてのOB文化セミナーが開催された。一方、一般参加のバンドの演奏も行なわれ、そのパワーに文系クラブも少し押し入れ気味だつた。

今回の文系クラブの巻き返しを期待して、小文化祭がもっと盛り上つたものになることを願つてやまない。



「OB文化セミナー」報告

小文化祭の企画のひとつとして同窓会主催・学生主事室後援により、標記の会が、当日午後1時半にわたり、修己館2階音楽室で開かれました。参加者は学生・教職員合わせて60名余で、会場に入れない人もいる程の盛り上がりでした。

講師は、M2期古島隆氏(フルシマ家具工芸経営、90年からの工芸展でグランプリ熊日賞受賞)、A4期八頭司美紀氏(Miki設計室経営、女性に配慮されたユニークな公衆トイレを設計した女性建築家)、C6期福島憲一氏(海外駐在員として、永くブラジル・西ドイツに滞在、現在も独在住)といつた方々でした。

川崎先生の司会のもと、なかなか雰囲気の中で会は始まりました。3人の方々には、在学中・卒業後の人生経験・人生観をユーモアたっぷりにお話し頂き、学生諸君にとっては、これからの人生の道標として、大いに役立ったのではないかと思つております。



第16回 体育祭報告

体育祭実行委員長 田上恭明

9月23日(日)、快晴のもと、第16回体育祭が開催された。

テーマは「天空乱舞 高専華族」グランド狭しと翔めぐる学生の姿に期待した。午前9時ヒヤの合図で入場行進である。各学科それぞれでデザインされたTシャツを着て堂々たる行進であつた。

プログラム1番応援合戦を皮切りに百米競走、ならんで棒、パン、ラムネ、あめを食べる苦しいツライアスロン、盛り上がるスウェーデンリレー、見ている人まで力が入る綱引き、新種目出会い、恒例の騎馬戦、ラッシュニアワー、そして年々レベルが高くなつてくる応援合戦では各学科とも趣向を凝らした応援を見せてくれた。又バックボード、マスコットでも、各学科とも本当に素晴らしい作品に仕上げられており、観客の目を楽しませてくれた。

午後に入り、恒例のクラブ紹介、そして新種目、卒業生対女子学生、父兄対教官による綱引きが行われた。卒業生、父兄の皆様の多数の参加により大変な盛り上がりを見せ無事成功することができた。その後混合リレー、サバイバルゲームと進み、迫力満点の棒倒し、そして最終種目学科対抗リレーへと、学生スタンド、観客席は興奮のつぼと化した。そして4学科エー

ル交換を最後に第16回体育祭全ての種目が終了した。その結果、電気工学科が十数年ぶりの栄冠を手にした。機械、工業化学、建築の各学科も惜しくも敗れはしたが素晴らしい取組を見せてくれた。

天候に恵まれ、幸い大きな事故もなく無事終了することが出来、我々も一安心している。後日体育祭の反省会が行われた。いくつか紹介してみると、こうである。時間が1時間程オーバーしてしまつた。女子競技を増やすべきであつた。バックボードの後片づけが遅れた。等々である。次回の体育祭では電子情報工学科の独立、女子学生の増加等、困難な問題点が考えられるので、体育祭の内容も新たな展開へと移り変わらざるえないであろう。

今回の体育祭には、おそらく前回を上回つたであろう多数の観客、来賓の方々の御来校があり誠に光栄であつた。こうして体育祭が無事に終えることができたのも学生会長後藤君を中心とした学生会役員、各科の指揮をとつてくれた各科団長のお陰と、御指導・御協力下さつた主事室、体育科の先生方、学生係の職員の方々の御力添えによるものであり改めてこの場を借り感謝いたします。

「体育祭成功!!万歳」



第16回 体育祭

四高専

合同演奏会報告

吹奏楽部部长 高村 喜威

去る8月11日、23回目の四高専合同演奏会が、小倉市民会館にて行われました。例年通り、久留米・大分・有明・北九州の各高専の吹奏楽部員が約90名集まり、8月6日から12日まで主管校である北九州高専の寮等で合宿を行い、演奏会の練習に励みました。

演奏会の内容は、1部ではR・ミツチエルの「大草原の歌」等オリジナル曲を3曲、2部ではボビエラ「ステージ」、3部ではクリグの「ペールギュント第1組曲」、チャイコフスキーの「序曲1812年」を演奏しました。練習期間が実質5日間しかなく短期間の練習

習でしたが、主管校の吹奏楽部員や演奏会に協力して下さった方々の努力で、演奏会は成功を収めることができました。

最後に、有明高専吹奏楽部が単独で行う定期演奏会を、来年1月26日(土)大牟田文化会館大ホールで行いますので是非御来場下さい。ら多数の企業の方々が一堂に会し会場はほぼ満員であった。本大会への出演のきっかけは、本校工業化学科の第10期生の草場氏が大会運営にあたられており、母校の吹奏楽部に出演依頼があったものである。部員はこのような多数の聴衆の前で演奏するのは初めてで、かなり緊張していたが、無事終了する事ができた。今後、このような対外的な行事に積極的に参加し有明高専の名前をアピールしていきたいと思う。

※吹奏楽部、福岡県産業安全衛生大会に出演。

本校吹奏楽部25名は、11月13日に大牟田市文化会館で開催された福岡県産業安全衛生大会のアトラクションの部に出演し、約千五百名の聴衆の前で30分間の演奏をした。本大会は職場における安全衛生意識の高揚を図り、労働災害を無くすることを目的に開催されるもので福岡県知事を始め、県内か



事務部からのお知らせ

新しい機械設備の導入紹介

1、ここ2、3年来の本省への予算要求がみのり工業化学科へ近く、時間分解蛍光分光光度計一式(約1,200万円、堀場製)が設置される。物質を構成している分子の動的挙動の解明など学内の基礎研究に威力を発揮するとともに、将来は同学科のバイオコース導入に役立つものと思われる。

留学生の受入れの動き

2、国際化の流れに沿い、いよいよ当校にも来年4月からマレーシアから留学生が1名(電気工学科3年)入学することが決まり学内では委員会を設け受け入れ準備に入った。

普通高校からの編入学生募集の動き

3、平成3年度の工業高校卒業生からの編入学生は既に9月3日に合格者(5名)の発表を行ったが来年度は更に開校以来初めて普通高校からの編入学生の募集を工業化学科で行うこととしており、願書受付は12月1日から12月7日まで、試験日は12月17日、合格者の発表は12月25日

に行われる。

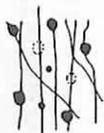
電子情報工学科棟建設の見通し

4、電子情報工学科棟は、本年8月24日に起工式を行い、本格的工事に入った。

この新学科棟は鉄筋コンクリート5階建て、総面積2359㎡、1階は教室、多目的教室、2階はプログラミング室、ワークステーション室、情報工学演習室、3階は電子工学実験室、電子情報設計製作実験室、4階は電子情報基礎実験室、電子情報応用実験室、情報伝送実験室、5階は半導体デバイス実験室、電子物性実験室、応用物性実験室、電子工学精密実験室となる。

玄関、ワークステーション室、半導体デバイス実験室は磁気カードで入室出来るようにしたいと考えており、また、エレベーターは4・5階直行のものが設置されるほか玄関まわりには身体障害者用スロープも設けることとしている。

工事は年内に躯体工事を行い、来年に入り電気、設備関係工事及び内装工事等仕上げを行って3月下旬にはインテリジェント化された建物が完成する予定。



編集後記

○今年は二回に分けて、十月二十日(土)と二十七日(土)に入試説明会・校内見学会を行った。昨年より参加者が減少したら、批判が出るかもしれないと心配したが、結果は、中学生、保護者、中学校の先生合わせて八九二名の方々が参加され、ともかく面目は保つことが出来た。

○今年も四年生諸君には夏季実習報告を、五年生諸君には就職体験記を各科それぞれ一名ずつに書いてもらった。在校生諸君の参考になれば幸いである。

○十一月二日の小文化祭に、外務省大臣官房在外公館課首席事務官佐藤重和氏に「変わりゆく世界と日本・日本人」という演題で講演していただいた。内容の一部を紹介する。皆さんが生きていくうえで、外国と関係なく生きていくことは殆どあり得ないから、国際情勢に関心を持って欲しい。また、日本の経済力が大きくなった原因は、世界の国際情勢が日本にとって有利であったこと、国の防衛をアメリカに頼る形で日本はエネルギーを経済発展に注いで来られたこと、日本人が一生涯懸命に働いたことなどによる。戦後の東西関係が崩壊した現在、日本が国際社会に示す役割が非常に大きくなり、自分の責任を果たす必要がある。詳しくは、本号を参照して下さい。○最後に御多忙中にもかかわらず原稿をお寄せ戴きました方々に厚くお礼申し上げます。